

手の中に私だけのツリー

障害者描いた革製パスケース好評

あなただけの東京スカイツリーはいかがですか？ スカイツリーが描かれた革製パスケースが、土産品として人気を呼んでいる。一枚ずつ丁寧に絵付けをするのは、精神障害がある2人の男性だ。障害者の作品としては異例の売れ行きに驚きと喜びの声が上がる。

東京スカイツリーをバックに、自身が製作したパスケースを持つ丑井さん(左)と石橋さん



一枚ずつ鮮やかな絵付け

「これ、かわいい！」

スカイツリーに隣接する商業施設・東京ソラマチ5階、地元・墨田区の産品を展示・即売する「産業観光プラザすみだまち処」で売られているパスケースに、買い物客から歓声があがっていた。

アクリル絵の具の彩り鮮やかに、スカイツリーの夜景などが描かれたパスケースは1680円(税込み)。開業から1年3カ月で490個が売れるヒット商品だ。

絵付けをする丑井俊英さん(26)は「こんなに多くの人が買ってくれたことは、自分にとっても励み」と表情を緩ませる。高校受験時に精神障害を患い、長期にわた

って家でふさぎ込んだり、家族に暴力をふるったりした経験を持つ。通院は今も続くが、絵付け作業に没頭するようになって症状は落ち着いている。また、特別養護老人ホームで絵画教室のボランティアを始めるなど、社会復帰に向けて準備中だ。

一緒に作業をする石橋誠さん(48)も「好きな絵をかいて、お金が稼げることがうれしい」と話す。自宅のある八王子から電車で2時間半かけて通う。

2人が作業をする「ひだまり工房」(墨田区)は、作品づくりなどを通じて人のコミュニケーションを訓練する精神障害者のデイケ

ア施設。絵付け以外にも、障害の程度や技量に応じ、革細工や金具取り付けなどを分業で担う。スカイツリー開業当時は週2回の作業だったが、今では週3回でも商品の製作が追いつかないほどだ。

「素晴らしい作品を手にし、同じ障害者として勇気づけられた」。ひだまり工房には、購入した障害者らから励ましやお礼の手紙が届くという。デイケア担当の精神保健福祉士の関口由紀さんは「障害者の作品がきちんとした値段で売れることは珍しい。お金を稼ぐことが自尊心の形成につながり、精神面でも安定する」と話している。

(鈴木逸弘)